

第一回 学校運営協議会議事録

〈日時〉 令和3年6月28日（月） 15:00~17:00

〈場所〉 メモリアルルーム

〈出席者〉 **学校運営協議委員** 後上 鐵夫、佃 英男、林 孝信、山下 勝也
鉄沢 尚美、森 郁子

本校教職員 吉田 隆、川端 裕子、四反田 武志、松下 知弘、
植野 達也、油谷 貴志、秋山 広樹、馬場 修平
中林 千尋

（敬称略）

〈資料一覧〉 1、令和3年度 学校経営計画及び学校評価
2、将来構想について
3、学校運営協議会（進路指導部）
4、学校運営協議会（広報委員会より）
5、オンライン等 ICT 教育の現状
6、学校運営協議会報告（生活指導部）
7、令和3年度入学生 1年次アンケート

議題等

- 1、開会挨拶（校長）
- 2、本校の現状報告と取組
 - （1）今年度の学校教育計画について（校長）〈資料1〉
 - （2）将来構想について（教頭）〈資料2〉
 - （3）進路状況について（進路指導部長）〈資料3〉
 - （5） 広報活動について（首席）〈資料4〉
 - （5） オンライン等 ICT 教育の現状（情報主担）〈資料5〉
 - （6）生活指導部長より（生活指導部）〈資料6〉
 - （7）新入生の状況について（一年次主任）
 - （8）その他（首席）〈資料7〉
- 3、質疑
- 4、その他
 - 第2回の日程について
- 5、閉会挨拶（校長）

協議内容

1、校長より会長・副会長選出が行われ、会長 後上鐵夫氏、副会長 佃英男氏が選ばれた。

2、議事

(1) 今年度の学校教育計画について〈資料1参照〉

1 【めざす学校像】

・昨年度と変更なし。

2 【中期的目標】

1. 確かな学力の育成

ア 今年度は特に ICT 機器の活用については感染対策としても、一層取組みを進める。

イ 授業力向上のため、公開授業や校内研究を活性化する。

→昨年度に引き続き、行っていきたい

エ 「産業社会と人間」・「総合的な探究」を土台とした3年間を見据えた「探究学習」の実施。

2. キャリア教育、人権教育の推進

ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究」、LHR等を活用して、3年間を見通したキャリア教育、人権教育を推進する。

イ 「自分はどうのように生きるのか」を考えさせ、「自分の生き方の方針」を生徒の中に作らせるための、人権教育とキャリア教育を推進する。

3. 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成

(1) 多様な学びと通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。

ア 学校行事や特別活動の通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を経験させる。

→本校では、とても大きいことである

ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。

→今年度も、新型コロナウイルスの状況に応じて進めていく

(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発言を行う。

ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。

→昨年度は新型コロナウイルスの影響により、まったく行えていないため、今年度は昨年度よりも進めていく見通し。(貝高カップ、農業、体育 など)

イ 学校ホームページを活用し、学校情報発信を積極的に行う。

→昨年度、保護者の方に「助かりました」というお声をいただいたので、今年度も広報活動を中心に進めていきたい

3 【本年度の取組内容及び自己評価】

〈確かな学力の育成〉

- ・授業力向上チームを中心に、授業アンケート、学校教育自己診断の結果を踏まえ、授業展開の工夫をする。
- ・感染症対策と授業力向上のために、ICT 機器を授業に一層活用できるように授業を工夫する。
- ・進路 HR、進学説明会等を通じて、多様化する入試制度を生徒にも保護者にも情報提供し、理解を深めてもらう。
- ・漢字検定、英語検定を受けるように奨励することで、学習意欲を向上させ、達成感を持たせる。
- 昨年度は、新型コロナウイルスの影響により数を制限されていたが、今年度からは、積極的に進めていく。
- ・「お互いに高めあう教育集団」の育成をめざし、全教員で教科の枠を超えてグループを作り、総合授業見学期間を設け、その後、研究協議を行う。
- 授業力向上として、今年度も行っていく。
- ・教員の放課後の時間の確保のため、ICT 機器による連絡手段を活用し、日常の連絡、情報共有を図る。

〈キャリア教育、人権教育の推進〉

- ・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の時間を充実させるため、副担任も入り、担任と T T で授業を行う。
 - ・人権教育推進委員会を中心に、特に新型コロナウイルス感染者に対する差別・偏見を許さない姿勢を獲得させる。
- 自己診断（生徒）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」85%以上を維持。
- 昨年度は89.3%となっており、新型コロナウイルスの関係から増加したと思われる。
- ・いつでも面接試験を受けられる身だしなみを心掛けるよう指導する。また指導内容を学校全体で統一し、生活指導は進路指導であることを生徒に理解させる。

〈「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成〉

- ・行事を通して多くの感動を体験させ、自己肯定感を高める取り組みを推進する。
- 行事満足度95%を堅持。
- ・学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」71%を72%に。
- 少しずつでも高めていきたい。
- ・地域の人を招いた学習成果発表会、部活動で中学生を招いての合同練習、近隣の幼稚園・小中学校や施設などとの交流を実施し、本校への理解・信頼を深めてもらう。
- 今年度は見通しが立っている。
- ・Web ページで‘生徒の活動の見える化‘に取り組む。
 - ・生徒が積極的にかかわる広報活動を進め、関わった生徒の自己肯定感を高める。
 - ・Web を活用した広報活動を推進する。
- 在校生が参加して、広報活動を行っていく。

（2）将来構想について（資料2参照）

1. 将来構想に関わる組織運営

【目的】

- ・複数分掌にまたがる懸案事項を検討・整理する。
- ・貝塚高校の課題について、意見交換を行い、校長に具申する。

【開催】

- ・今年度は月1回のペース。

2. 今年度懸案事項として進めている課題と進捗状況

① 4 考査制の導入について

新学習指導要領及び新たな観点別評価導入に伴い、ゆとりのある授業時数と評価の機会確保が必要。また、学校行事開催にゆとりを持たすことにもなる。

4 考査制導入を行うなら、観点別評価の理解、ある程度の定着が必要。令和6年度（1・2・3年次そろって新観点別評価になる）それまでのスケジュールを組み立てていく。

② 教職員の負担削減に向けて

各分掌の仕事の見える化（業務の見える化）→全体の業務量を知る
対生徒の時間を減らすことなく、他のところでの期間を削減

（3）進路状況について〈資料3参照〉

・保護者説明会がオンラインに変更になった。対面での説明会のほうが丁寧ではあるが、動画を視聴する形では、何度も見返すことができるため、保護者の方からは好評だった。動画は400回以上視聴された。

1. 15期生(2020年度卒業生)の進路状況（卒業生273名）

- ・専門学校等 142名と全体の約半数を占めている。
- ・昨年度は、Zoomでの面接やマスクで試験を受けるなど、例年と比べ変化がたくさんあったが、生徒たちは臨機応変に対応してくれた。

【大学】 37名

- ・昨年度は全国的に指定校推薦が増加。本校でも指定校推薦が多かった。
- ・桃山学院大学5名、羽衣国際大学5名と本校で最多。

【短期大学】 30名

- ・総合型（A0）と指定校推薦は同じくらい。
- ・昨年度は、保育の進学が特に多かった。

【看護専門学校等】 27名

- ・昨年度は看護の倍率が高かったにも関わらず、9割以上が合格した。

【各種専門学校等】 142名

- ・医療分野（看護）が46名、衛生分野（調理・美容）が32名と、この二つの分野が特に多い。

【就職者】 45名

- ・学校斡旋 100%

2. 3年次生（16期生）の進路希望状況（6月20日時点）

- ・進路希望者192名 就職希望者39名 未定者7名

3. 本校での進路の取り組み

3年次生：進路ガイダンス、「総探」や進路 HR での取り組み

2年次生：「総合的な探求の時間」での取り組み（適性検査、分野別ガイダンス等）

1年次生：「産業社会と人間」での取り組み（卒業生の進路を知る、分野別ガイダンス等）

入試関係

6月1日～ 専門学校 A0 入試エントリースタート

- ・早い生徒は面接練習も行っている。

4. 奨学金

第1回 申し込み 約120名

5. 就職

・昨年度は新型コロナウイルスの影響により、書類の提出開始時期や選考時期が、1か月ほどずれ込みましたが、今年度は例年通り9月5日から書類提出が始まります。

- ・今後のスケジュール

7月中旬 求人公開、説明会

7月末～8月上旬 応募前職場見学

8月下旬 履歴書作成

9月16日 就職試験解禁日

（4）広報活動について〈資料4参照〉

【目的】

- ・学校説明会および本校の広報に関わる業務を行う。

【仕事内容】

- ・掲示板の管理：来校された方が、わかりやすいように
- ・広報誌（パンフレット・ポスター等）の作成：パンフレットを作成しました。行事や授業の写真をたくさん使用し、わかりやすくしました。
- ・広報用動画の作成：貝塚高校の特色・進路・体躯債などの行事を動画撮影し、HPなどに載せます。

（5）オンライン等 ICT 教育の現状〈資料5参照〉

〈本校のこれまでの ICT 教育の取り組み〉

【環境整備】

・職員が自分の端末で返信できるように、大職員室と大教室2に無線APを設置。
オンライン上で生徒とやり取りができる「Google Classroom」を採用。
→昨年の6月には生徒が通常通り登校できるようになったため、あまり使用できていない。
また、生徒は自身の使用している端末を使うので、通信制限等の理由によりうまく活用できていない。

【教職員への取り組み】

・簡単な動画作成のための研修および課題への取り組み。
・教員向けの Google Classroom の初歩的な使い方研修。
→研修は行ったが、使う機会はなかった。

【生徒への取り組み】

・Google Classroom および Google Form の使用
→アンケート機能が使用できるか、確認
・Zoom を活用したりリモートでの動画ライブ中継（生徒会選挙・講演等）
→昨年度放送のみで行っていた生徒会選挙を、今年度はリモートで実施した。教室で演説者の顔を体育館よりも近くで見ながら演説を聞くことができた。しかし、講演者側からは、生徒の反応がわからないという意見もいただいた。

〈本校のこれからの ICT 教育・学校運営の取り組み予定〉

【環境整備】

・Chromebook 端末の利用目的・運用体制を計画
→生徒に何を行っていくか、考えていく
・会議の形態の変容
→会議内容を撮影したものを、共有する。働き方改革にも関わってくるところである。

【生徒への取り組み】

・生徒1人1台端末の配布
→当初の予定では9月頃またはそれ以降

（6）生活指導部長より

・昨年度の遅刻件数、一年次が増加した。
・各考査間に遅刻5回以上になれば早朝登校。早朝登校に失敗すれば、放課後課題指導。
→課題内容について一部変更
（昨年度まで）放課後課題指導一回目 漢字の書き取り
（今年度から）放課後課題指導一回目 なぜ遅刻してしまったのかの振り返りシート
二回目 漢字の書き取り（今後、変更していく予定）
・学年毎に遅刻が増える時期に目標を設定した取り組みにより減少。（連休明け・休み明け・祭り明けに増加傾向あり）
・昨年度の懲戒件数は、懲戒対称生徒数とも微増だが、全体的には年々減少傾向にある。
・暴力による指導件数が減少。
・昨年度の生指部長訓告生徒40名のうち、例年最も多い一年次生は6名（15%）

→しかし、一年次は非常に大変であり、担任団はよく持ちこたえたと思う。(これから生徒にどう働きかけていくか)

・昨年度から女子生徒のネクタイ購入が可能となった。

→実際ネクタイを着用している生徒も多い。

・今年度まで女子生徒は、スカートとリボンが絶対購入で、スラックスとネクタイは自由購入だった。次年度からは、スカートかスラックス、リボンかネクタイどちらか一つで良いとする。

→しかし、男子生徒のスカートの購入は、面接に行くときの服装として定着していないため、相談したうえで、自由購入とする。

(7) 新入生の状況について (一年次主任)

・4月～6月に予定していた校外学習や体育祭が延期になり、仲を深める機会がない中、部活は再開することができました。4月はまだ少し緊張していた生徒も、今は友達同士で楽しそうにしている。

・調査期間中も朝早くから登校し、勉強をしていたり、放課後に残って勉強をしている。

・一年次団として、生徒に安心してもらえる場所づくりを目標にしている。生徒の話聞き、寄り添っていききたい。

・中学校とは違うことがたくさんあり、指導することもたくさんある。指導する中で、その生徒を知るいいきっかけになる。教えられることもたくさんある。

・有意義な3年間にしたい。

(8) その他 (首席) (資料7)

〈令和3年度入学生 1年次アンケート (R3.6.3. 実施)〉

・問2 申込不要説明会 【参加】49.4%と12.2%増加。参加は5年連続で増加している。

・問5 受験の理由 【中学校の先生・親・本校の先輩に勧められた】周囲の人からの意見で「貝塚高校いいよ」と言っていただけ。

【本校の説明会に参加して】3年連続で増加している。

・問6 最重要視したのは 【自宅から近いから】【総合学科で進路にあった多様な科目が学べるから】【行事が魅力的だから】が最重要視した理由の上位3位以内

・問7 受験時に比較した高校 【貝塚南高校】をはじめ、貝塚周辺の高校が多い。

・学校説明会などで、もっと貝塚高校の魅力を伝えていきたい。

3、質疑

〈質疑〉

(学校教育計画)

Q. キャリア教育とは具体的にどのようなことをしていますか？

A. 「産業社会と人間」や「総合的な探求の時間」を一つの軸にして、積み上げていく。各学年に担当者がおり、産社コーディネーターを中心に担任以外の教員とも考えていく。生徒にとって、自分の将来を考えるきっかけがたくさんある。

Q. 自立や障害のあるなしにかかわらず、どのような支援をしていますか？

A. 自立支援部ができて長く、「共に学び、共に育つ」が学校文化に根付いてきている。部活なども分けたりなどしていないので、自然な形でできている。また一年次の初めに、自立生の保護者講演会を行っている。部活に所属している生徒も多く、孤立している生徒もいない。

Q. 「総合的な探求の時間」とは、なにをしていますか？

A. 課題を決めて、調べ学習を行い、自分自身で答えを探していきます。二年次では修学旅行場所について、調べ学習を行っています。修学旅行も探求の延長になります。グループ発表→クラス予選→学年と進んでいき、最後まで勝ち抜くと、大阪総合学科の発表会や貝高フェスタで発表します。

(将来構想)

Q. 4 考査制の時期は、どれくらいですか？

A. 一回目 6 月／二回目 9・10 月／三回目 12 月／四回目 2 月

三年次は 7 月に成績が出るので、一回しか考査できないが、観点別評価は成績だけで決まるものではない。

(進路)

Q. 資料 3 の 1 15 期生の進路状況にある、上記以外とは、フリーターということでしょうか？

A. 俳優志望の生徒や宗教上の家庭のお手伝い等、いろいろな生徒がいます。また、3 月時点で進路が決まっていない場合、ハローワークに登録し、面接練習を行うなど、最後まで支援しています。

(広報)

Q. 資料 4 の 3 イベント等外部 7 月上旬にある P T A 主催とは、どのようなことをしますか？

A. こちらは中学校の P T A の方が主催されているものです。

(ICT)

Q. 生徒に一人一台 Chromebook が配布され、卒業したら生徒のものになりますか？

A. なりません。3 年次が卒業したら、次の新入生が使用します。在校生の間は、家への持ち帰りは可能です。

(生徒指導)

Q. 早朝登校や遅刻指導とは、どういった内容ですか？

A. 早朝登校は、遅刻を 5 回すると早朝登校になります。朝 8:20 のチャイムが鳴り始めるまでに学年職員室に行きます。朝、早く来ることを習慣づけるために行っています。

遅刻指導は、早朝登校に失敗すると、放課後に残って一回目は反省文のような振り返りシート、二回目からは漢字の書き取りです。漢字の書き取りは「罰」にしかないということで、現在検討中です。

〈意見〉

・Chromebook を生徒一人に一台配布するということですが、語学力の低下・視力低下などが気になります。どんどんインターネット普及してきているが、いいのかな？という風に思います。小学校でも電子機器の配布が始まり、低年齢化も気になります。

4、その他

・第2回の予定 10月27日(水) 14:00~16:50 (※授業見学)